

【陸上（高）領域授業研究会】

参加者：日野郡 7 名

指導助言：鳥取県教育委員会体育保健課 諸家 馨 指導主事

○協議の柱

「探究的な授業がなされていたか」

「ICT の効果的な活用がなされていたか」

「場の設定・教具の工夫がなされていたか」

「豊かなスポーツライフにつながる体育であったか」



○成果

- ・「全員が 75 cm 跳ぶ」という単元のゴールが明確であり，児童全員が課題を共有することができた。
- ・Ipad を使って，一斉に参考動画を送信したり学習の足跡を残したりするなど，ICT 活用の幅が広がった。
- ・高跳びにつながる数種類のアナログンを組み合わせてアップに取り入れることで，児童が必要な感覚を身につけることができていた。
- ・安全に配慮した教具の工夫がなされていた。

○課題

～探究的な授業を目指して～

- ・ポイントをしぼり，課題を明確にする。
- ・映像や模範演技から，児童とゴールイメージを共有する。
- ・運動の特性本来の楽しさを追究する。「～ cm 記録を伸ばす」→「ふわっと」
- ・個人ではなく，チームで課題を設定する。
- ・児童の考えを共有させる仕掛けをする。

（例）教師「気をつけることは何？」→児童「一本軸」→教師がやってみる→児童「そうじゃなくて」
→実際に全体の前でやらせてみる。

～ICT の活用～

- ・再生遅延ソフトを活用することでの課題の共有を図る。
- ・情報をあらかじめ絞って児童に送信し，その中から必要な情報を ICT で見つけさせることで学習を深める。

～豊かなスポーツライフにつながる体育～

- ・「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方の視点から，児童を評価する工夫を行う。

